

公益社団法人 **福岡県医師会** FUKUOKA PREFECTURE MEDICAL ASSOCIATION

→ サイトマップ
→ お問い合わせ

🏠 トップ
👤 県民の皆様
👨‍⚕️ 医師の皆様
🔗 アクセス
🔗 リンク
👤 会員専用

➤ 感染症発生動向調査 週間コメント

【疾病別 推移グラフ】

23.12.36

第36週 (H29.9.4~H29.9.10)

■今週のトピックス

▽ 今週(2017年第36週:9/4-9/10)はRSウイルス感染症がやや減少ですが多発が続いています。インフルエンザは沖縄県ではまだ多発し、福岡県でもA+が少数あります。手足口病は減少しましたがまだ多く、ヘルパンギーナは少ない。感染性胃腸炎ではカンピロバクター、サルモネラの報告が続き、腸管出血性大腸菌が多い。

▽ 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)が72人と多発が報告されています。ダニ媒介感染症にもご注意ください。

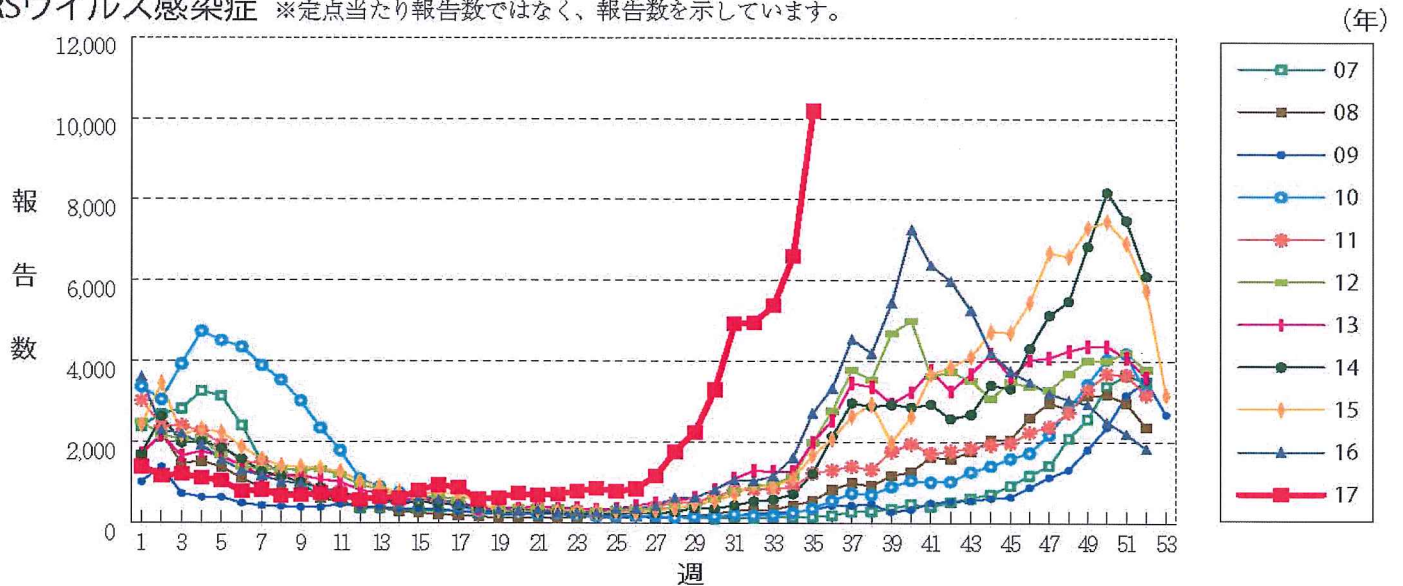
病名	報告数	前週比	主な増加地区等	1定点当たりの患者数	
				福岡県	全国
インフルエンザ	15	-9	福岡12、筑後3	0.08	0.17
RSウイルス感染症	586	92%	福岡299、北九州184	4.88	3.23
咽頭結膜熱	57	92%	福岡28、筑後15	0.48	0.48
A群溶連菌咽頭炎	288	127%	福岡175、筑後71	2.40	1.22
感染性胃腸炎	581	90%	福岡248、北九州197	4.84	3.37
水痘	35	92%	福岡16、北九州11	0.29	0.20
手足口病	226	69%	福岡115、北九州56	1.88	5.58
伝染性紅斑	3	-6	筑豊3	0.03	0.07
突発性発しん	75	103%	福岡41、筑後17	0.63	0.46
百日咳	3	±0	福岡3	0.03	0.01
風しん	0	±0		0.00	
ヘルパンギーナ	57	51%	福岡25、北九州16	0.48	1.41
麻疹	0	±0		0.00	
流行性耳下腺炎	30	71%	福岡23、北九州5	0.25	0.36
川崎病(MCLS)	4	-7	北九州2、福岡2	0.03	
マイコプラズマ肺炎	18	+2	北九州9、福岡6	0.15	0.32
クラミジア肺炎	0	±0		0.00	0.01
細菌性髄膜炎	0	-1		0.00	0.04
無菌性髄膜炎	3	-2	北九州3	0.03	0.04
急性脳炎	0	±0		0.00	
急性出血性結膜炎	0	±0		0.00	0.01
流行性角結膜炎	33	110%	北九州17、福岡9	1.27	1.00
性器クラミジア感染症	20	-11	福岡10、北九州6	0.54	
性器ヘルペス	13	+9	福岡6、北九州3	0.35	
尖圭コンジローマ	2	±0	北九州1、福岡1	0.05	
淋菌感染症	10	-11	福岡6、北九州3	0.27	
梅毒	0	-1		0.00	

全国情報は平成29年35週分です。全国情報ではマイコプラズマ肺炎155、クラミジア肺炎5例。

平成29年第35週までの累計は、急性灰白髄炎0、結核15041(県内707)、コレラ4、細菌性赤痢101(県内9)、腸管出血性大腸菌感染症2568(今週210、県内今週9、計107)、腸チフス25(県内0)、パラチフス11、E型肝炎230、A型肝炎198(今週4、県内7)、オウム病10、ジカウイルス感染症2、SFTS72(県内1)、チクングニア熱2、つつが虫病105、デング熱157(県内2)、日本紅斑熱190、日本脳炎0(県内0)、マラリア37(県内1)、レジオネラ症1094、アメーバ赤痢715、ウイルス性肝炎197(県内6)、急性脳炎491(県内29)、クロイツフェルト・ヤコブ病136、劇症型溶連菌感染症383(県内22)、後天性免疫不全症候群930(県内43)、侵襲性インフルエンザ菌感染症263(県内14)、侵襲性髄膜炎菌感染症19、侵襲性肺炎球菌感染症2301(県内116)、水痘(入院)206(県内11)、先天性風しん症候群0、梅毒3728(県内170)、風しん63(今週2、県内0)、麻疹176(今週0、県内4)例。1類感染症の報告はない。

RSウイルス感染症発生状況(全国) (第35週 H29.8.28~H29.9.3)

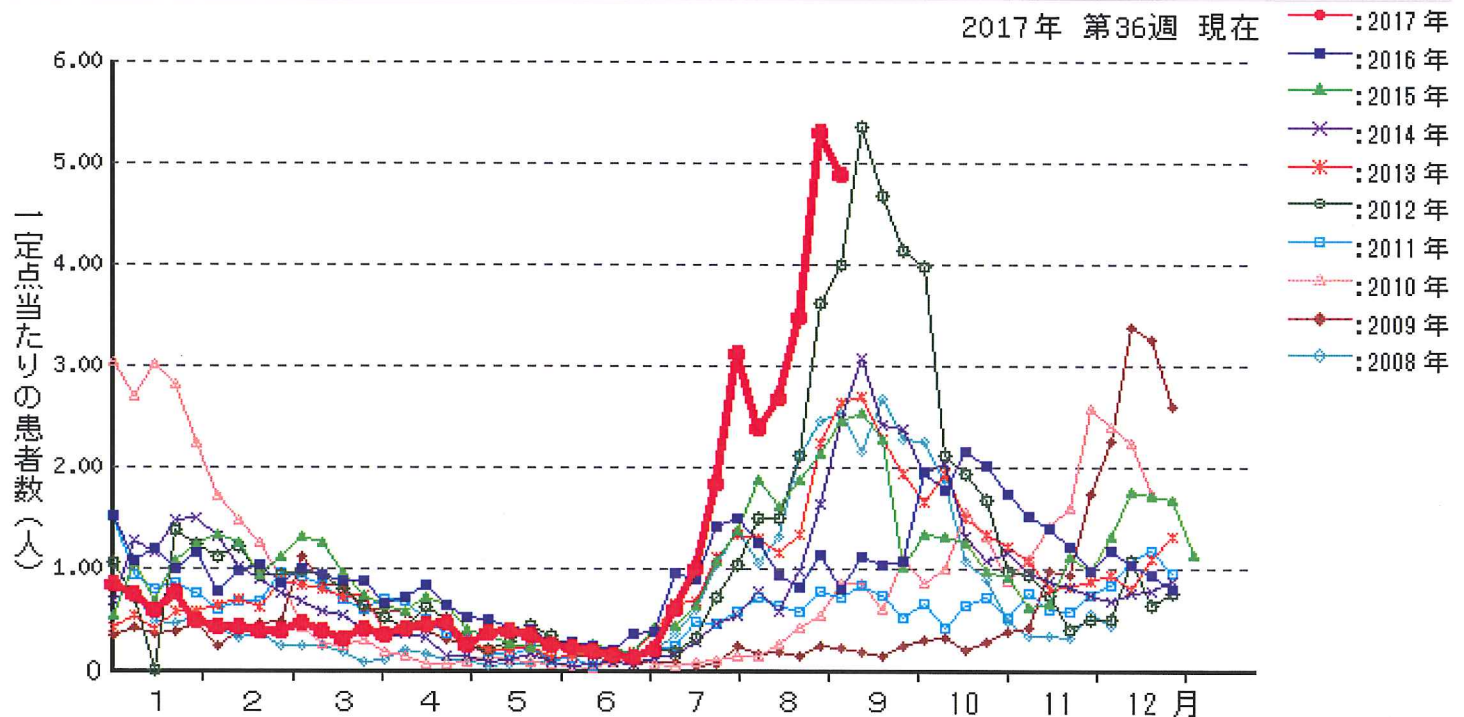
RSウイルス感染症 ※定点当たり報告数ではなく、報告数を示しています。



RSウイルス感染症発生状況(福岡県) (第36週 H29.9.4~H29.9.10)

■RSウイルス感染症 (福岡県全域)

2017年 第36週 現在

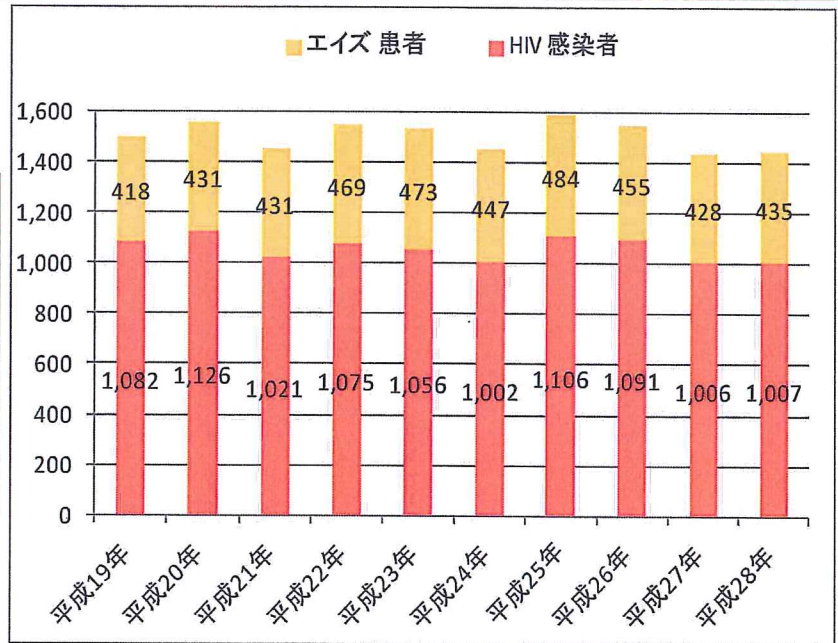




# 資料 1-3

## 新規HIV感染者・エイズ患者報告数の年次推移 (全国)

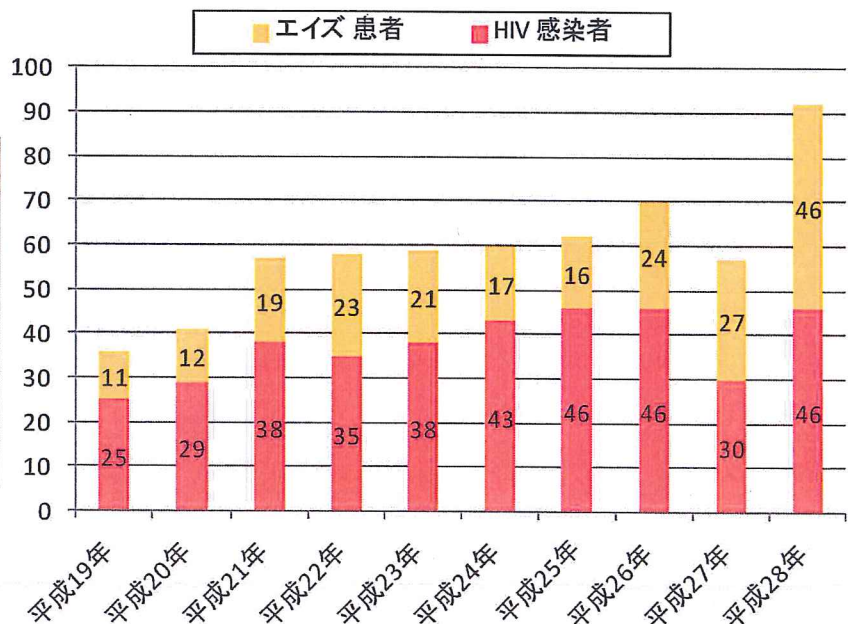
年	HIV感染者	エイズ患者	総数
平成19年	1,082	418	1,500
平成20年	1,126	431	1,557
平成21年	1,021	431	1,452
平成22年	1,075	469	1,544
平成23年	1,056	473	1,529
平成24年	1,002	447	1,449
平成25年	1,106	484	1,590
平成26年	1,091	455	1,546
平成27年	1,006	428	1,434
平成28年	1,007	435	1,442



平成28年は、HIV感染者、エイズ患者がともに微増している。  
新規報告者数は過去9位。

## 新規HIV感染者・エイズ患者報告数の年次推移 (福岡県)

年	HIV感染者	エイズ患者	総数
平成19年	25	11	36
平成20年	29	12	41
平成21年	38	19	57
平成22年	35	23	58
平成23年	38	21	59
平成24年	43	17	60
平成25年	46	16	62
平成26年	46	24	70
平成27年	30	27	57
平成28年	46	46	92



平成17年以降HIV感染者数は増加傾向にあり、平成25年以降は、全国がほぼ横ばいの  
中、当県は大きく増加している。新規報告者のうち、エイズ患者が約半数を占めている。

## 新規HIV感染者・エイズ患者報告数(人口10万対) (全国、H27年)

人口10万対での報告数が、上位10位の自治体

### 1. HIV感染者

	自治体	人口10万対
1	東京都	2.718
2	大阪府	1.901
3	沖縄県	1.196
4	岡山県	0.884
5	愛知県	0.832
6	徳島県	0.785
7	奈良県	0.727
8	宮崎県	0.718
9	香川県	0.714
10	岐阜県	0.686

### 2. AIDS患者

	自治体	人口10万対
1	香川県	0.917
2	沖縄県	0.704
3	高知県	0.678
4	宮崎県	0.628
5	大阪府	0.600
6	愛知県	0.577
7	福岡県	0.530
8	東京都	0.530
9	岐阜県	0.490
10	滋賀県	0.424

福岡県は、人口10万対0.589で**12位**。

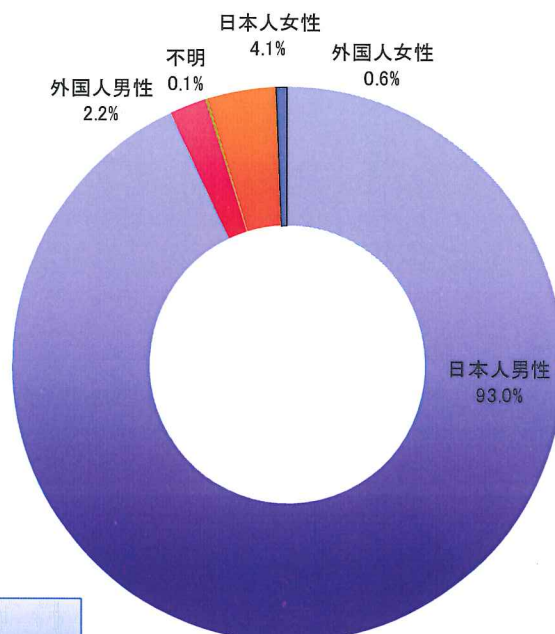
3

平成27年エイズ発生動向の概要

## 新規HIV感染者・エイズ患者報告数国籍別・性別内訳 (福岡県、H28年末までの累計)

区分	人数
男性(日本人)	733
男性(外国人)	17
男性(不明)	1
女性(日本人)	32
女性(外国人)	5
女性(不明)	0
総数	788

(平成28年末までの累計)



95.3%以上が男性。  
男性のうち98%が日本人となっている。

4

感染症発生動向調査事業

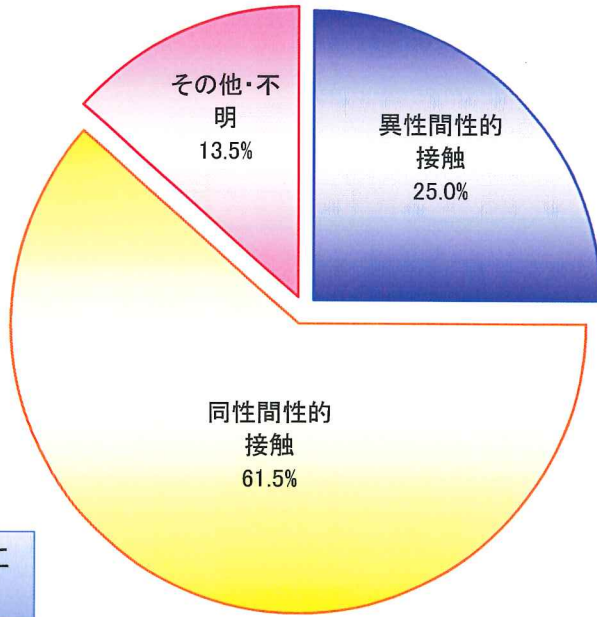


# 新規HIV感染者・エイズ患者報告数感染原因別内訳 (福岡県、H28年末までの累計)

■ 異性間性的接触   
 ■ 同性間性的接触   
 ■ その他・不明

区分	人数
異性間性的接触	197
同性間性的接触 ※	485
その他・不明	106
総数	788

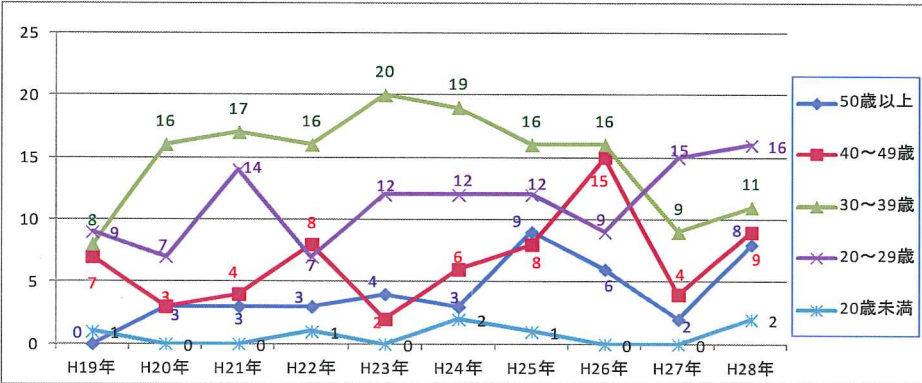
\*両性間性的接触含む  
(平成28年末までの累計)



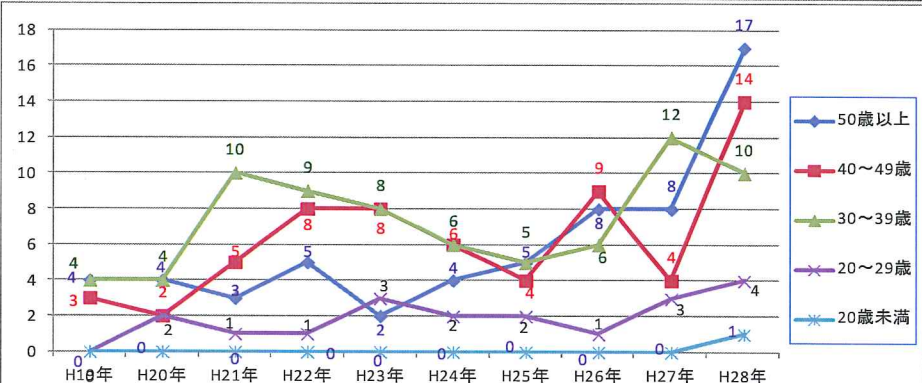
感染原因の61.5%が同性間性的接触によるものである。

# 新規HIV感染者・エイズ患者報告数年齢区分別・年次推移 (福岡県)

感染者

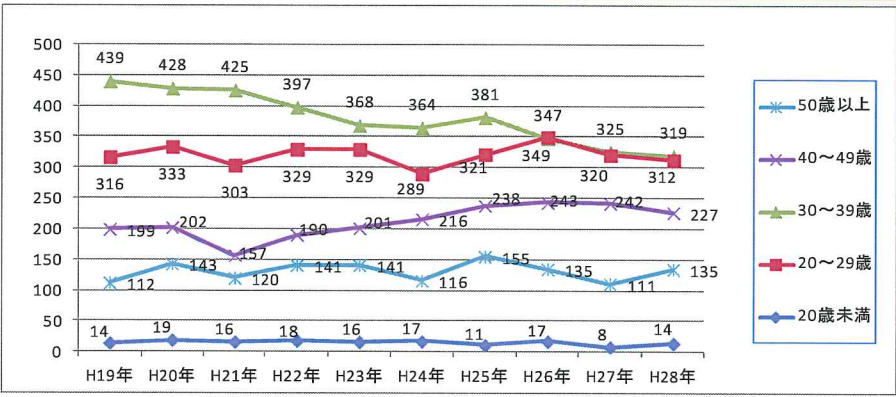


患者

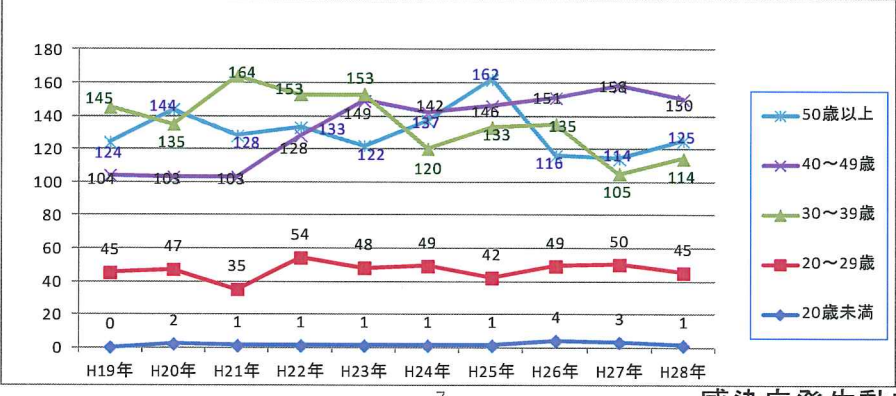


# 新規HIV感染者・エイズ患者報告数年齢区分別・年次推移 (全国)

## 感染者



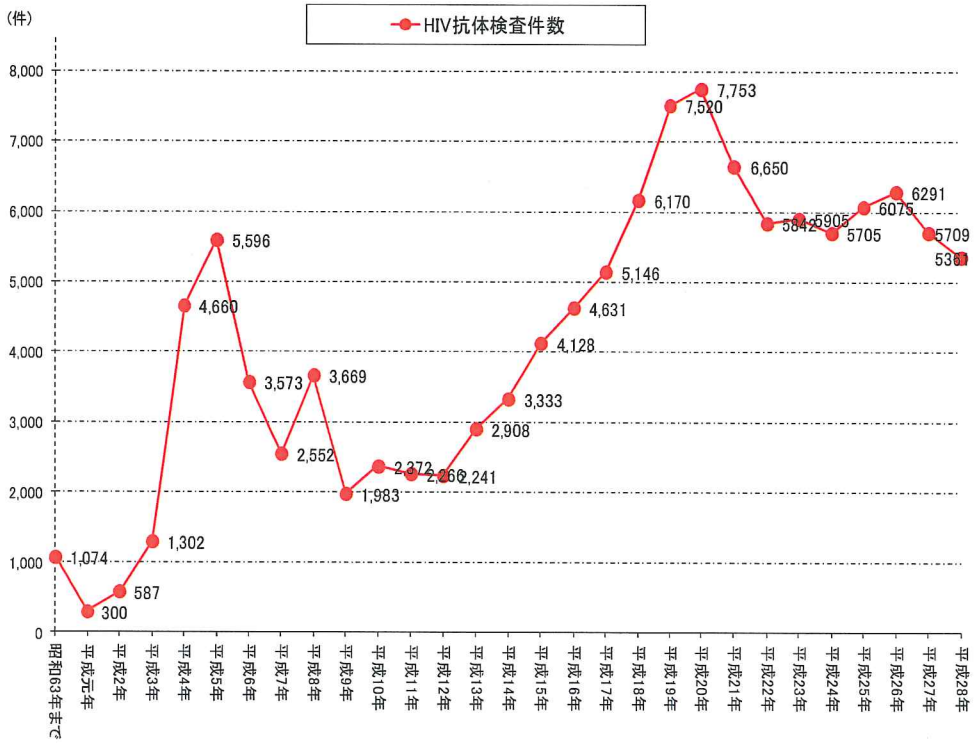
## 患者



感染症発生動向調査事業

# 保健所におけるエイズ検査件数の年次推移(県全体)

年	検査数
平成10年まで	27,668
平成11年	2,266
平成12年	2,241
平成13年	2,908
平成14年	3,333
平成15年	4,128
平成16年	4,631
平成17年	5,146
平成18年	6,170
平成19年	7,520
平成20年	7,753
平成21年	6,650
平成22年	5,842
平成23年	5,905
平成24年	5,705
平成25年	6,075
平成26年	6,291
平成27年	5,709
平成28年	5,361







HIV/エイズ検査は保健所で **無料・匿名** で受けることができます。

保健所名	相談 相談電話番号	定例検査		HIV検査普及週間(6/1~6/7) に伴う臨時検査		
		曜日	受付時間	日にち	時間	
北九州市 ★北九州市保健所 注1)	093-522-8727 (エイズホットライン) 093-522-8711 (検査予約電話番号)	第1月	17:00~19:00	★6月4日(日) [要予約]	9:00~11:00	
		6・12月は第1日曜のみ 9:00~11:00				
		小倉北区役所	093-582-3440	火	9:00~11:00	—
コムシティ5階 予診室 (八幡西区役所)	093-642-1441(内線445)	水	9:00~11:00	—	—	
福岡市	東区保健福祉センター	092-651-8391(エイズダイヤル)	火	9:00~11:00	—	—
	博多区保健福祉センター	092-441-0023(エイズダイヤル)	木	9:00~11:00	—	—
			第2、4水	16:00~18:00	—	—
	★中央区保健福祉センター 注2)	092-712-8391 (エイズダイヤル・予約電話)	火	9:00~11:00	★6月3日(土) [先着50名]	14:00~15:00
			第2日	14:00~15:00		
	南区保健福祉センター	092-541-8391(エイズダイヤル)	火	9:00~11:00	—	—
	城南区保健福祉センター	092-822-8391(エイズダイヤル)	水	9:00~11:00	—	—
	早良区保健福祉センター	092-846-8391(エイズダイヤル)	水	9:00~11:00	—	—
西区保健福祉センター	092-891-0391(エイズダイヤル)	月	9:00~11:00	—	—	
★大牟田市保健所	0944-41-2669	第1・3月	13:00~14:30	★6月5日(月)	17:00~19:00	
久留米市保健所	0942-30-9340 (性感染症相談ダイヤル)	水	9:00~11:00	★6月7日(水)	16:00~20:00	
福岡県保健福祉 (環境)事務所	★筑紫保健福祉環境事務所	092-582-2522(エイズホットライン)	火	9:00~11:00	★6月6日(火)	16:30~19:30
	粕屋保健福祉事務所 注1)	092-939-1746	火	9:00~11:00	—	—
	宗像・遠賀保健福祉環境事務所 注1)	0940-36-6098	火	9:00~11:00	—	—
			遠賀分庁舎 注1)	(同上)	月	14:00~15:30
	北筑後保健福祉環境事務所 注1)	0946-22-4190(エイズホットライン)	月	9:00~10:00	★5月29日(月) [要予約]	16:00~19:00
			★久留米分庁舎 [久留米総合庁舎]	(同上)	火	9:00~10:00
	糸島保健福祉事務所	092-322-5579	火	9:00~10:00	—	—
	嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所 注1)	0948-23-5911(エイズホットライン)	火	9:00~10:00	★6月6日(火) [要予約]	16:00~20:00
			直方分庁舎 注1)	(同上)	月	14:30~15:30
	★田川保健福祉事務所	0947-42-9379	火	9:00~11:00	—	—
	南筑後保健福祉環境事務所 注1)	0944-72-2812	火	9:00~10:00	★6月11日(日)	14:00~16:00
八女分庁舎 注1)			(同上)	月	14:00~15:00	—
京築保健福祉環境事務所	0930-23-3935	火	9:00~10:00	—	—	

※ 電話番号は本庁舎窓口の電話番号です。カーナビ等の電話番号検索でお越しの際はご注意ください。

★: HIVの迅速検査実施保健所

注1) 予約制(電話番号は上表参照)

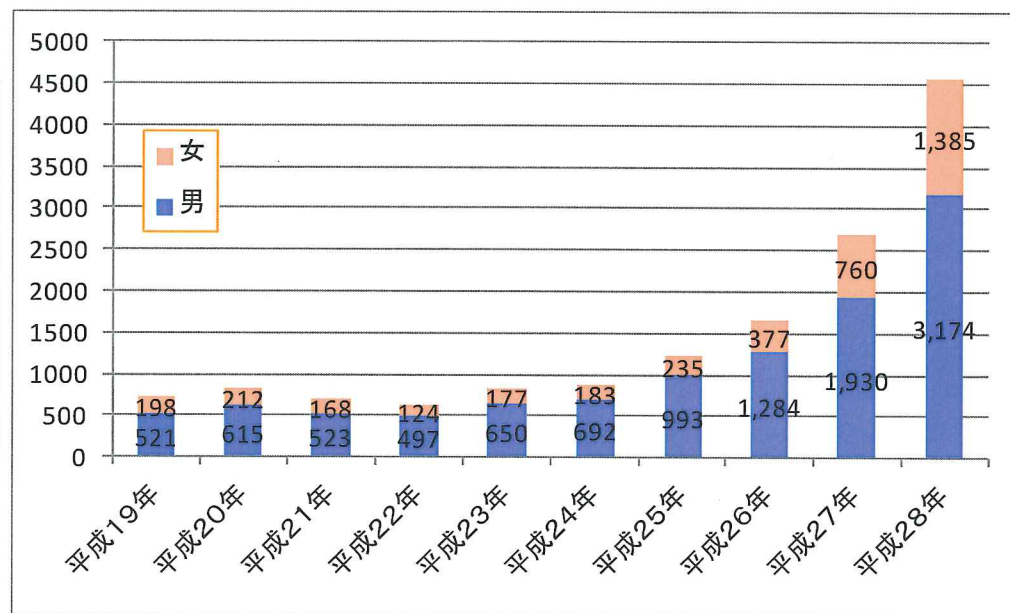
注2) 福岡市中央区保健福祉センター: 火曜日 9時~11時(予約制) 結果は採血の約1時間後  
第2日曜日14時~15時(予約不要・先着50名) 結果は採血の約1時間後





## 新規梅毒患者等報告数年次推移 (全国)

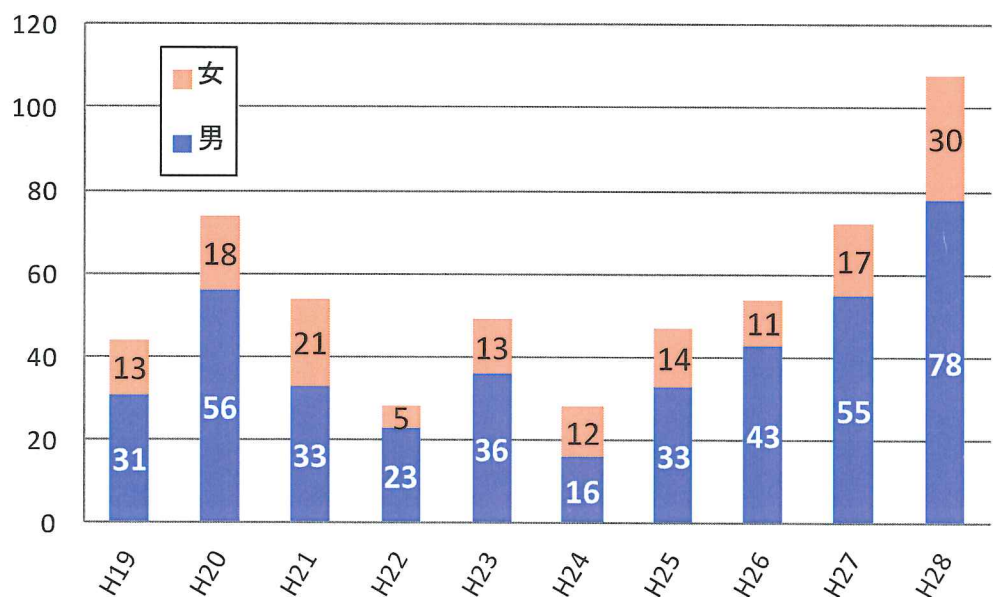
年	報告数
平成19年	719
平成20年	827
平成21年	691
平成22年	621
平成23年	827
平成24年	875
平成25年	1,228
平成26年	1,661
平成27年	2,690
平成28年	4,559



平成22年以降増加傾向。H24年以降の増加率が大きい。

## 新規梅毒患者等報告数年次推移 (福岡県)

年	報告数
平成19年	44
平成20年	74
平成21年	54
平成22年	28
平成23年	49
平成24年	28
平成25年	47
平成26年	54
平成27年	72
平成28年	108

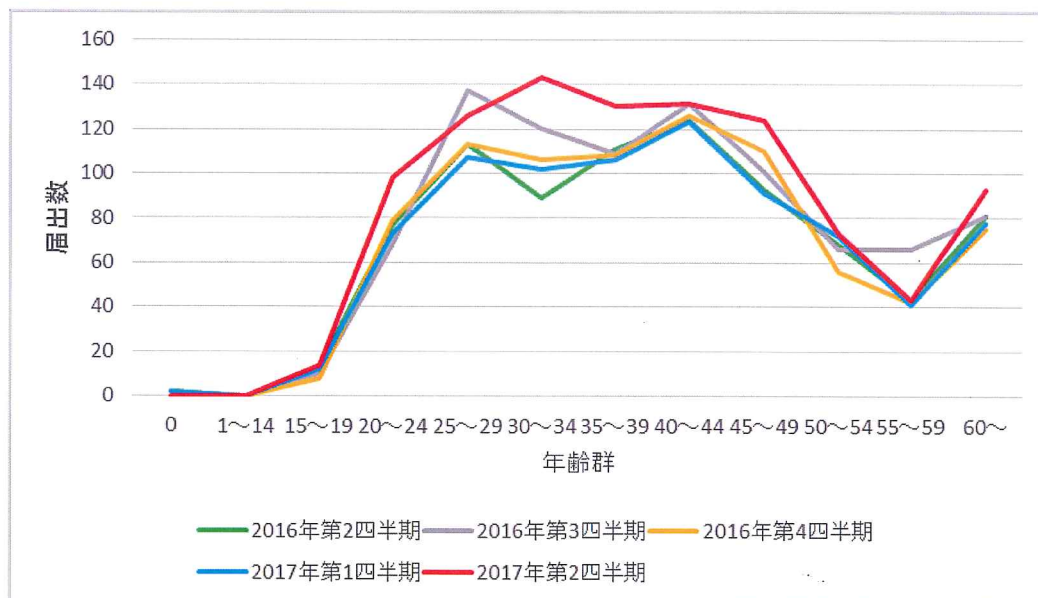


平成24年以降、増加傾向。男性患者が7割以上を占め、H24以降増加中。女性患者数はほぼ横ばいだったがH27、H28と増加。

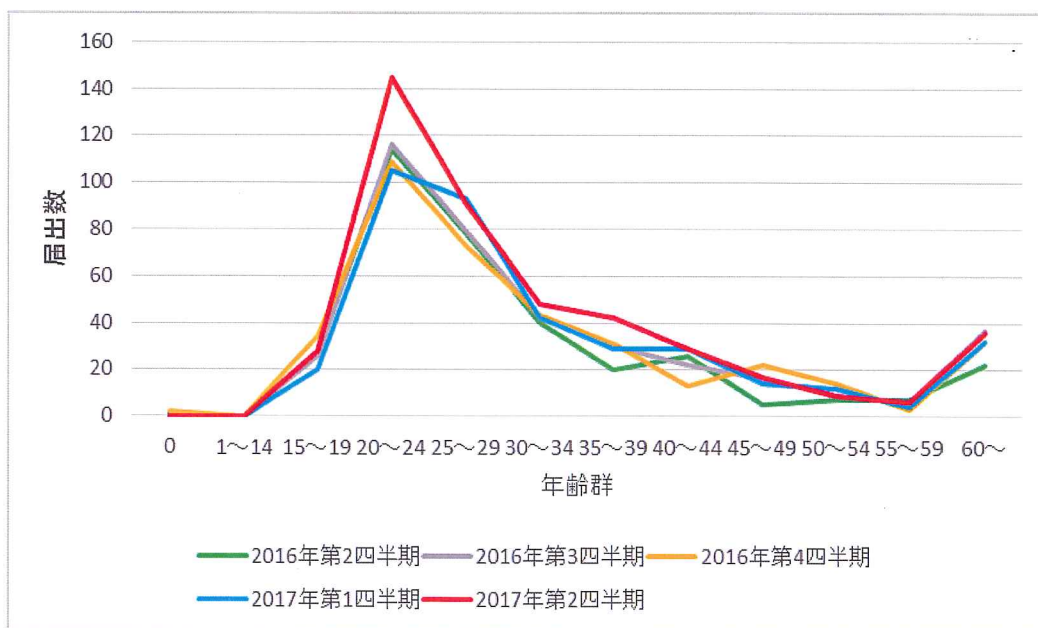


# 梅毒性別・年齢別届出数（全国）

図3. 年齢分布：2016年第2四半期から2017年第2四半期（四半期毎）  
男性



## 女性



出典：感染症発生動向調査で届出られた梅毒の概要（国立感染症研究所 感染症疫学センター・細菌第一部作成）





検査しないと **おしおきよ!!**

## STI(性感染症)・HIVは 早期発見・治療が大切です。

保健所や医療機関などで検査を受けることができます。各機関にお問い合わせください。  
まずは検査・相談できる機関を検索してみよう。▶▶▶▶

### HIV検査相談マップ

全国HIV/エイズ・性感染症  
検査・相談窓口情報サイト



<http://www.hivkensa.com/>

コンドームの適切な使用により感染のリスクを減らすことができます。

STI・HIVはセックス、オーラルセックス、アナルセックスなどで感染します。一度治っても再び感染することがあるので、パートナーと一緒に検査・治療を受けましょう。

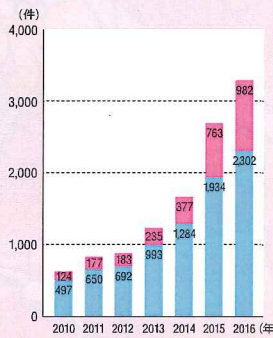


# 主な性感染症とその症状

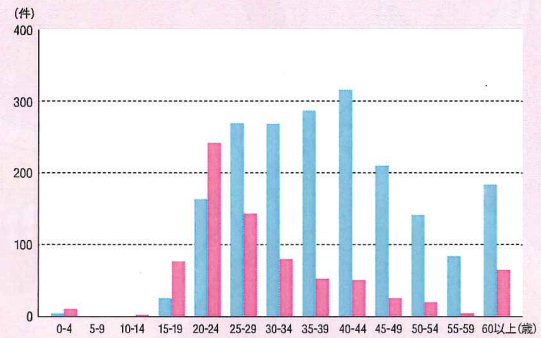
## 梅毒

痛みのない潰瘍が性器に形成され、治療せずにいると全身の皮疹・リンパ節の腫脹、さらには数年～数十年後には血管や神経の障害等、全身に多様な症状をきたすことがあります。妊婦の感染は早産や死産、胎児の重篤な異常につながる可能性があります。

梅毒報告数の推移※



年齢別にみた梅毒報告数(2015年)※



2010年以降、梅毒の報告数は増加を続けており、女性は20歳代、男性は20歳代～40歳代の報告が多くなっています。

※2010～2014年は感染症発生動向調査事業年報による。2015年、2016年は2016年10月11日時点集計値(暫定値)、2016年は2016年第1週から39週までの報告を対象。

## 淋菌感染症・ 性器クラミジア感染症

男性では排尿痛、尿道不快感、尿道からの分泌物、女性ではおりものの変化や下腹部の痛みといった症状をきたすことがありますが、感染しても無症状な場合も多いです。男性、女性の双方で不妊の原因になることがあります。淋菌と性器クラミジアは同時に感染していることが多いです。

## 性器ヘルペス ウイルス感染症

男性器、女性器に痛みを伴う水泡ができ、潰瘍になるものもあります。一度かかると治療しても繰り返し再発することがあります。女性の場合、妊娠・出産時の感染が胎児に重篤な合併症を引き起こすことがあります。

## ヒトパピローマ ウイルス感染症

性経験のある女性の半数以上が一度は感染するとされています。症状はほとんどありません。様々なタイプがあり、一部のウイルスは、性器にいぼができる尖圭コンジローマの原因となったり、子宮頸がんや膣がんなどの原因となったりします。

## HIV・エイズ

HIVに感染すると、初期症状にかぜのような症状が見られることがあります。その後、自覚症状のないまま徐々に免疫力が低下し、本来なら自分の力で抑えることのできる病気(日和見感染症)などを発症します。早期に治療を開始し、適切な治療を続ければ、感染前とほとんど同じ生活を送ることが可能です。HIV感染は検査でしかわかりません。

**コンドームの適切な使用により感染のリスクを減らすことができます。**

STI・HIVはセックス、オーラルセックス、アナルセックスなどで感染します。一度治っても再び感染することがあるので、パートナーと一緒に検査・治療を受けましょう。